

(様式第4号)

交流・文化施設等整備検討委員会第1回専門委員会概要

- 1 会議名 交流・文化施設等整備検討委員会 専門委員会
- 2 日時 平成20年10月20日(月) 午後3時から午後5時まで
- 3 会場 上田市役所本庁舎5階 第3委員会室
- 4 出席者 日端委員長、美山副委員長、土本委員、伊藤委員、佐田委員、津村委員、関田委員、滝沢委員、【欠席委員】太田委員、
- 5 市側出席者 母袋市長、石黒副市長、森教育長、大沢政策企画局長、小菅教育次長、宮川政策企画課長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、清水都市計画課長、中山公園緑地課長、中部文化振興課長、若林交流・文化施設建設担当係長、室賀係長、徳田主任、
- 6 運営支援業務受託者 室賀建築設計事務所 室賀欣一氏
- 7 公開・非公開等の別 公開・一部公開・非公開
- 8 傍聴者1人 記者2人
- 9 会議概要作成年月日 平成20年10月21日

協議事項等

- 1 開会(大沢政策企画局長)
- 2 委員委嘱(母袋市長)
- 3 市長あいさつ
上田市がJ T 上田工場跡地に整備する交流・文化施設については、すでに検討委員会を立ち上げ、その整備のあり方について検討を重ねてきている。また検討にあたっては、市民意向調査などの手法により、市民ニーズの把握にも努め、多くの市民意見や要望を参考にしていく。
J T 跡地全体の利活用については、次の3つの視点を重視し、市民の皆様や議会と議論を重ねてきた。
第一に、「民間の活力」という視点。市の財政状況が厳しい折、また地域経済が低迷する中、スピード感を持って事業を進めるべく、「民間の主導」による再開発事業として進めてきた。
第二に、「中心市街地の活性化」という視点。上田駅に近く、中心市街地の一角に位置する広大な土地における開発であり、公共、商業及び住宅ゾーンからなる中心市街地の起爆剤として位置づけている。
第三に、「新たな交流、賑わいの拠点」という視点。新市発足後3年目に入り、旧4市町村の皆さんが交流する場、経済圏、生活圏といった広がりの中で、他の都市住民との交流、また、観光等でも賑わってほしいという願いから、賑わいの拠点として位置づけている。
この専門委員会では、施設の規模や機能などについて専門的な角度からの具体的な検討をいただき、また「新上田市のシンボル」、「文化芸術の薫るまち」づくりの拠点とするため、ご指導、ご助言をお願いしたい。先般のアンケート結果では、財政面における市民の関心が高く、私共もこれを真剣に受け止めながら、財政面における将来の影響等、説明責任を果たしてまいりたい。
今後、50年先、100年先と、次の世代の子どもたちにとっても誇り得るような、都市の風格が漂い、「文化薫るまち・上田」、「創造都市・上田」の実現に向け、改めてご支援、ご協力をお願いしたい。
- 4 委員・事務局紹介
- 5 委員長・副委員長選出
事務局：委員長・副委員長の選出を行いたい、事務局に案があるのでご了承いただきたい。
委員：(了承)
事務局：委員長を日端委員に、副委員長を美山委員をお願いしたい。
委員：(了承)
- 6 正副委員長あいさつ
委員長：上田市に文化の核を創るということになると思うが、いまホールや美術館などは、従来のものから非常に変化してきている。私個人では全体を掌握できないため、各委員の皆さんのご協力により、よい案がまとまるよう、よろしくをお願いしたい。
副委員長：いま文化施設は、単に鑑賞・発表の場というだけでなく、都市間競争や自治体外交、地域の

歴史や文化の特性を表す重要なツールとして様々な役割が求められている。これを実現できる
よう力を尽くしたい。

7 議事

(1) 会議の運営について

事務局：(説明・資料1)

委員長：会議は本日も公開ということか。

事務局：本日からということ。

委員：発言は全文か、それとも取りまとめたものか。

事務局：発言の要旨ということ。

委員長：個人の委員名が表示されるのか。

事務局：検討委員会と同様、「委員長」または「委員」という表記となる。

(2) これまでの経過と基本方針について

事務局：(説明・資料2- 、)

委員長：先程、市長が「新たな交流、賑わいの拠点」として、「観光」という表現を用いていたが、「観光客を呼べるようなもの」と理解してよいか。

事務局：「交流」という部分の中には、文化的な側面だけでなく、産業、観光面とも連携を図りながら、この拠点を大いに活用、つなげていくという願いがある。

委員長：この議題については、また最後に委員の皆さんから発言をいただきたい。では、次の議題について事務局から説明されたい。

(3) 専門委員会の進め方について

事務局：(説明・資料3)

委員長：非常にタイトなスケジュールであるが、何かご発言は。

委員：今日は、ホールの規模や内容などについて、具体的な討議を行うのか。

事務局：次の議題で、検討委員会での検討経過の説明と、専門委員会での検討課題について提案するため、その中で意見をいただきたい。

委員長：検討委員会をメインとし、専門委員会はその下部組織的な位置付けと考えているが、最終報告までに4回、最終回はまとめの回であり、実質的には3回ということを見ると不安な部分がある。12月にもう1回開催せざるを得ないのではないか。

委員：基本コンセプトについても専門委員会でまとめていくということか。

委員長：専門委員会でも積極的に意見をいただくが、これを決めてから先に進むということではなく、この表現でよいのか、またもう少し絞った方がよいのかを含めて最後にまとめる。では、最後にまた皆さんから発言をいただくこととし、次の議題について事務局から説明されたい。

(4) 検討課題について

事務局：(説明・資料4)

委員長：お気づきの点や質問を含めてご発言を。

委員：基本コンセプトや基本的な考え方などはその通りであると考えているが、ホールについては、一流のオペラやバレエの公演が可能な、劇場型の多目的ホールとすべき。関東から長野までの沿線にそうしたホールがないことから、上田に大きな集客力が生まれる。規模については、オペラ等の公演ではオーケストラピット()の使用により座席数が減少することを踏まえても、興行的に採算が合う席数、例えば1,800席程度がよい。次にソフトの問題として「自主事業を行う予算がない」、「指定管理で効率を追求するため自主事業が行われない」というようなことの無いように、建物の検討と同時に事業運営の方針についても議論することが重要。また「交流」という意味では、関東からお客さんが呼

べるような拠点とすれば、観光面で効果が期待できる。そのためには、外観などよりも舞台機構や音響設備にお金をかける。(客席前側の一部が上下可動式になっている構造)

委員：オペラやバレエ等の公演を行うことは重要だが、経費についても考えなければならない。世界的な公演を年に10本行えば、運営費は10億円以上となり、今から運営や経費面をハード面と同時に考えていかなければ大変なことになる。但しそれが可能であれば、経済波及効果には素晴らしいものがある。北九州芸術劇場は開館後、毎年これを検証しており、1年間の効果は約33億円である。立派な劇場を造っても、市民利用だけでは全国にその評判は広がらない。積極的に公演を行っていくことでそれが可能。また、1,800~2,000席の規模で他のジャンルの公演を考えると、興行的に採算が合う公演は非常に少ない。ポップス系でも2,000人を集めるアーティストは少ない。なお、2,000人のホールを運営し、積極的に事業を行うには、20~30人のスタッフが必要。それでも仕事に耐えられず何人も辞めていく。経費面では、運営だけで約6億円は必要。これらの点をどう担保するか、並行して考えていかなければかなり厳しい。素晴らしい劇場を造ることは前提であるが、開館後2~3年で貸館のみのホールになることは避けなければならない。

委員：まさにその通りで、私も同じ意味で先程お話しした。全国に7館程、多面舞台を持つホールがあるが、その舞台が活かされていない。多面舞台を持ちながらそれらの全ては使わず、コンサートなど様々な公演を行っているホールもある。つまり、多面舞台などではなくて、立派な公演ができる舞台機構にお金を掛けるべき。

委員：美術館機能においても、アンケートなどでは有名な展覧会の開催が多く望まれており、そのためには、ふさわしい規模と設備が必要であるが、一方で、市民会館の移転を中心に考えた場合、果たしてそれが可能なのか。そうした展覧会がどの程度開催できるのか。長野県レベルでも、人件費を除いた経費が数千万円もかかるような有名な展覧会は十数年に一度しかない。先程のホールについての意見と同様で、ホールを中心とした整備の中で、コンセプトに基づいたソフト事業を今から考えていかなければ、多くの美術系の人々の、非常に熱い思いにはとても耐えられない。

委員：これからの私達の検討は、本事業の予算を踏まえた上でのものか、それとも、予算よりも理想を求めていくべきなのか。

委員長：それは前者です。

委員：そうですね。だとすれば、興行でホールを使用する私達の立場から見ると、人口規模20万人弱の都市で2,000席のホールは対応できない。先の意見のように、オーケストラピットの件を踏まえて、1,800席程度がよい。それから美術館の併設について、建設費の節減の意味でも、同じ建物の中でエントランスを共用するなどの方法も考えるべき。

委員：上田の美術関係者の非常に熱い思いの中で、また、美術館の設置について陳情等も出されている中で、美術館機能の位置付け、つまり「美術館」なのか「美術展示ホール」に過ぎないのか、この部分はどこで決定するのか。

委員長：検討委員会で決定するが、場合によっては専門委員会で検討し、検討委員会で承認する。この際、検討委員会で異論が出た場合は、専門委員会で再度検討する。

委員：ホールと美術館で場所の取り合いを避けるためにも、共用スペースを多く持つことが重要。例えば、5年、10年に一度大規模な展覧会を開催し、国宝や重要文化財も展示するような場合に、普段音楽用に使用しているスペースをその時期だけは美術品の展示に使用できればよい。しかし、こういうこと可能だろうか。

委員：「文化の顔」という意味では、ホールよりも美術館の方が重要。今回の施設は、美術館が入ることで非常に面白くなる。ホールは毎日開館するわけではないが、一方、美術館は毎日開館している。観光客を呼んだり、何かを紹介したりできるのは美術館であるから、お互いの連携が重要となる。この意味でも、美術館部分が遠慮する必要は全くない。

委員：上田の文化財はビジュアル的にインパクトが大きいものではなく、非常に教育的、思想的なもの。また、市内に収蔵庫がないことから、これについても必要であり、また山本鼎や石井鶴三の記念館を設置したいとの要望もある。そんな中、ホールと美術館との線

引きというか、どういう風に折り合いをつけていくのか、非常に不安を感じる。

委員長：この専門委員会で具体案を一案作る必要がある。

委員：上田市では何十年も前から、山本鼎ら郷土の作家を大切に作る動きがある。しかし、アンケート結果では市民の関心が決して高いわけではなく、これをどの程度反映させていくのか考える必要がある。

副委員長：これまで、ホールと美術館の鑑賞者は別と考えられてきたが、美術の鑑賞者は音楽や舞台の鑑賞者にもなりやすく、またその逆も同様という研究結果がある。しかし、この点に関してこれまで前向きに取り組む事例が非常に少なく、今回の施設でどのように実現できるか、実にチャレンジアブルな課題と言える。次に、本事業は50年に1度の失敗は許されない事業。これまでいくつもの文化施設で既に社会的陳腐化が始まっている現実を見る中で、今までの事例を基にするのではなく、新しい発想で考えなければならない。また、この施設の重要なところは、「交流」という表現が入っていることであり、この意味を明確にしなければならない。文化間の交流なのか、異世代間の交流なのか、または地域間の交流なのか、意味を明確にすることで、施設に必要な規模や機能が浮かび上がる。よくボランティア活用というが、これをもって「交流」というわけにはいかない。最後に、行政評価という点。今、文化施設に求められるものが増えており、例えば、現市民会館の来館者は年間約10万人、これが2倍になるのか、1.1倍で終わってしまうのか、市民が納得できるような説明責任を果たしていくためにも、今から並行してデータ作りを進めていかなければならない。

委員長：まだまだ意見があると思うが、時間もあるので今日はここまでとしたい。今日は、重要なポイントが3つ挙げられた。これらは検討委員会でも議論しながらも明確にできなかった点である。1つ目はホールの規模や質。今日は予算の内訳について事務局から1案提案された。この案は多少の調整はあっても大きくは変わらないため、これを基に検討する。2つ目はホール、美術館などを別々に建設するのかということ。検証の必要はあるが、個人的には同一の建物とすることが、建設・運営費の面でも、スペース共用の面でも、効率的、合理的であると感じる。3つ目は、「交流」施設のあり方。単純に会議室などを用意するのか、それとも芸術活動という目的に限定するのか、そして限定した時に、どういう市民活動ができるのか、これらも重要な論点と言える。これらを踏まえ、できれば次回は大枠のイメージを一案決めたい。なお、アンケート結果が示すとおり、市民の皆さんの関心は「財政面への配慮」であり、これに応えなければならない。そのためには、具体的な運営費なども示し「上田市でこの施設であれば大丈夫」ということを明確にする必要がある。次回、この議論の続きをお願いしたい。

(5) 委員会の開催予定について

事務局：(説明・資料5)第2回専門委員会は11/11(火)午後6時からとしたい。

委員：(了承)

(6) その他(なし)

8 閉会

委員：これだけのことを決めるのに、専門委員会の回数が4回というのは少ない。

委員長：場合によっては個別に、ということも可能だが、大きな方針は全員の承諾を得たい。ではこれでよろしいですか。長時間お疲れ様でした。

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。